

「嫁ハラメント」に関する実態調査

13.0%が「嫁姑問題」はあると回答。最も多いのは、「姑の過干渉」

65.4%の夫は、認知していても対処してくれない！

二人の愛だけでは乗り越えられない結婚生活。様々なトラブルの中でも嫁姑問題は、夫婦だけではどうにもならない難儀な問題だ。実際、「嫁姑問題」は、どれくらいのご家庭で起きていて、皆、どのように対処しているのだろうか。

今回、オウチーノ総研(株式会社オウチーノ/本社:東京都港区/代表:井端純一)は、20歳~79歳の既婚女性827名を対象に「『結婚生活』に関するアンケート調査」を行った。「姑との間で『嫁姑問題』はありますか?」と聞いたところ、13.0%が「ある/あった」と回答。どの年代も1割強が「ある/あった」と回答していることから、いつの時代も嫁姑問題に悩む嫁は一定数いるようだ。それに対し、65.4%の夫は「嫁姑問題」を認知していても、対処してくれていないことが分かった。なお、「嫁姑問題」のなかで最も多いのは「姑の過干渉」だった。

■調査概要

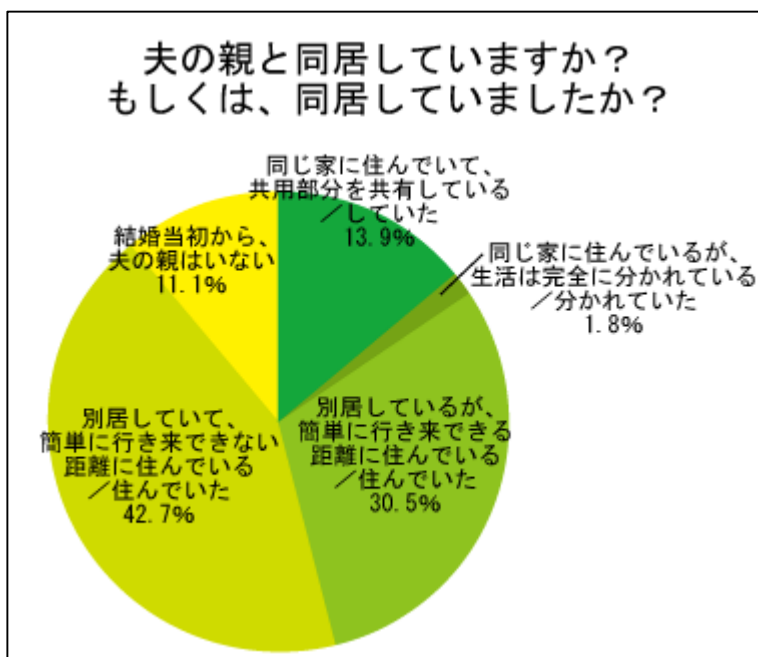
有効回答 首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)在住の20歳~79歳の既婚女性827名

調査方法 インターネットによるアンケート調査

調査期間 2015年2月10日(火)~2月12日(木)

1. 夫の親と同居している嫁は15.7%、別居は73.2%

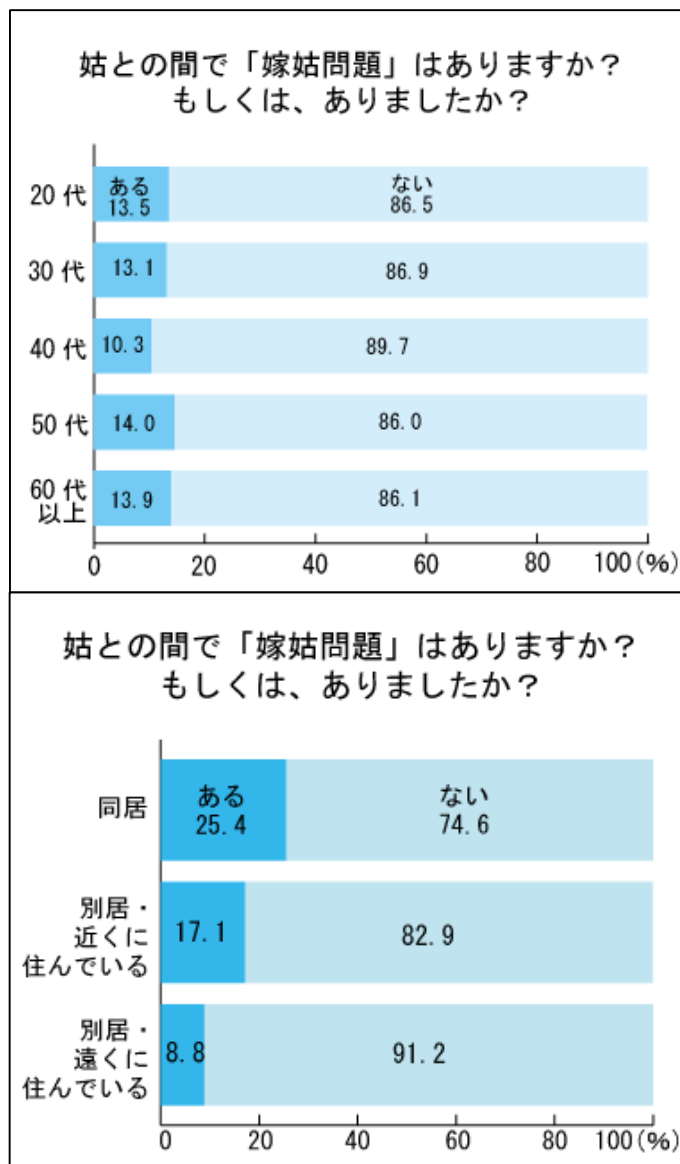
まず既婚女性に、「あなたは夫の親と同居していますか?夫の親がいない、または施設等に入られている場合は、ご健在だったとき同居していましたか?」という質問をした。結果、「同じ家に住んでいて、キッチン、バス、トイレなどを共有している/していた」と回答した人は13.9%、「同じ家に住んでいるが、生活は完全に分かれている/分かれていた」と回答した人は1.8%、「別居しているが、簡単に行き来できる距離に住んでいる/住んでいた」と回答した人は30.5%、「別居していて、簡単には行き来できない距離に住んでいる/住んでいた」と回答した人は42.7%、「結婚当初から、夫の親はいない」と回答した人は、11.1%だった。



2. 13.0%が「『嫁姑問題』はある」と回答。最も多いのは、「姑の過干渉」

次に、「姑との間で『嫁姑問題』はありますか？もしくは、ありましたか？」と質問したところ、13.0%が「ある／あった」、87.0%が「ない／なかった」と回答した。年代別に見ると、「ある／あった」と回答した人は、20代が13.5%、30代が13.1%、40代が10.3%、50代が14.0%、60代以上が13.9%だった。また、同居／別居別に見ると、「ある／あった」と回答した割合は、「同居している／していた」人が25.4%、「別居しているが、簡単に行き来できる距離に住んでいる／住んでいた」人が17.1%、「別居していて、簡単に行き来できない距離に住んでいる／住んでいた」人が8.8%だった。なんと、姑と同居している嫁の4人に1人は「嫁姑問題」はあると回答していることから、嫁と姑の距離が近いほど、「嫁姑問題」が起こりやすいことが分かった。具体的にどのような「嫁姑問題」があったかを聞くと、最も多かったのは、「私のやることなすこと何でも文句をつける」(66歳)や「毎日の食事やたばこなどについて、口出ししてくる」(29歳)など、「姑の過干渉」だった。次いで、「味の好みや生活スタイル、衛生観念などが合わない」(39歳)や「いつも否定される」(35歳)などの「性格・価値観の不一致」が多かった。他にも、「子どもの教育方針に頓珍漢な口出しをされる」(32歳)や「私に対するイヤミを、わざと私に聞こえるように、まだ言葉の分からない息子に言われた」(27歳)、「食事に言いがかりをつけられた」(35歳)、「仕送りを強要された」(58歳)などが挙がった。

近年、妊婦に対する「マタニティハラスメント」が問題となっているが、家庭における「嫁ハラメント」も一定数発生していることが分かった。



3. 65.4%の夫は、認知していても対処してくれない！

次に、「嫁姑問題がある」と回答した人を対象に、「夫は『嫁姑問題』があることを知っていますか？また、対処してくれていますか？」と聞いた。結果、「知っていて、対処してくれている／対処してくれた」と回答した人が32.7%、「知っているが、対処してくれていない／対処してくれなかった」と回答した人が65.4%、「知らない／知らなかった」と回答した人が1.9%と、65.4%の夫は、嫁姑問題を認知していても対処してくれていないことが分かった。年代別に見ると、「知っていて、対処してくれている／対処してくれた」と回答した人は、20代が60.0%、30代が27.6%、40代が29.4%、50代が39.1%、60代以上が17.4%。「知っているが、対処してくれていない／対処してくれなかった」と回答した人は、20代が33.3%、30代が69.0%、40代が70.6%、50代が60.9%、60代以上が82.6%だった。20代の嫁の夫だけが、飛び抜けて「嫁姑問

題」の解決に協力的であることが分かった。

夫の具体的な対処法は、「同居を解消してくれた」(35歳)や、「なるべく接することのないようにしてくれている」(38歳)など、姑との距離を置いてくれたという声が最も多かった。次に、「こちらの考えや思っている事などを姑に話してくれる」(50歳)や「姑を説得してくれている」(30歳)など、「味方となり間に入ってくれる」という声が多かった。

4. 52.3%が「嫁姑問題」継続中

最後に、「嫁姑問題は解決しましたか?」という質問をした。結果、「解決した」と回答した人が47.7%、「継続中」と回答した人が52.3%だった。年代別に見ると、「解決済」は20代が40.0%、30代が31.0%、40代が23.5%、50代が56.5%、60代以上が82.6%だった。

加えて、具体的にどのような対策をとったかを聞いてみた。すると、嫁姑問題が解決した、していないに関わらず、40代以下は「別居した」(31歳)、「最低限の付き合いをしている」(38歳)、「実家に行かない」(41歳)という回答が多かった。嫁と姑は家族とはいえ、元々は赤の他人。分かり合うためには相当な時間とエネルギーを要するだろう。そのため、「嫁姑問題」そのものを解決するというより、距離を置いて関わりを減らす方が得策なのかもしれない。50代以上は「姑が亡くなった」(51歳)や「姑が老人ホームに入居した」(61歳)などの声が最多だった。

オウチーノ総研: <http://corporate.o-uccino.jp/research-o/>

